

法人本部

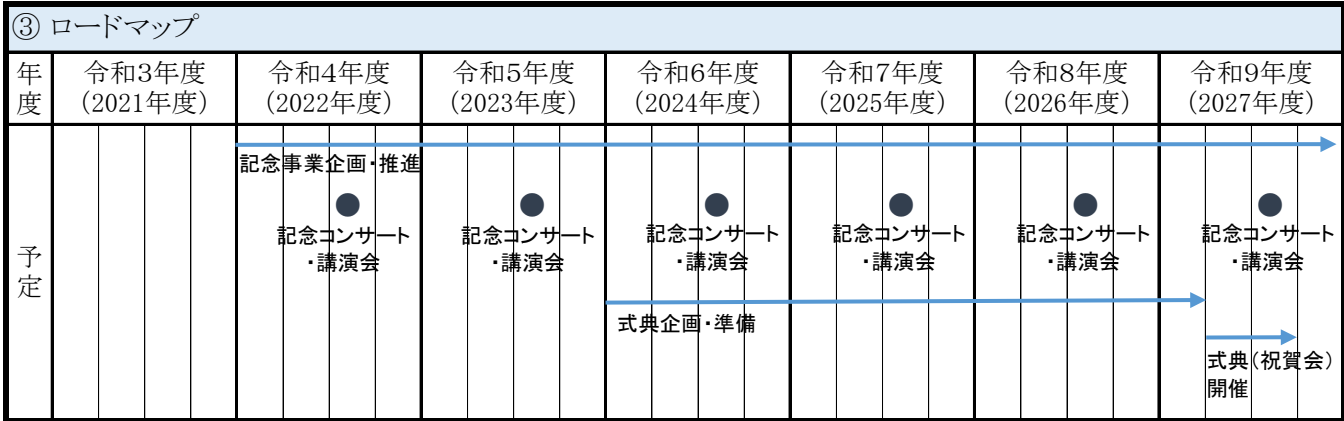
企画課管理用 管 — C — 1

推進主体	創立150周年記念事業統括部 記念事業統括課
責任者	創立150周年記念事業統括部長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
管 — C	創立150周年記念事業の企画・推進	令和 4 年度	令和 9 年度	なし

① 目的・内容  
創立150周年を見据えて、本院の魅力を再発見するような記念事業を企画・推進することで、ステークホルダーの帰属意識を一層高める。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。  
周年までの数年間をかけて式典以外の創立150周年記念事業を企画・推進し、令和9年度に創立150周年記念式典(および祝賀会)を開催する。



④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
	目標						
	実績						
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
	目標						
	実績						

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度に学生・生徒等からデザイン案を公募し、創立150周年記念シンボルマークを決定した。令和4年度に商標登録を完了した後、シンボルマークを使用したオリジナルグッズの開発を行う。教職員用名刺についてはシンボルマーク入りデザインへの変更を検討する。</li> <li>・創立記念日のある10月を目途に学習院創立150周年記念講演・記念コンサート等を毎年計画する。本事業については中期計画推進予算を充て、初回となる令和4年度は10月15日(土)に学習院創立百周年記念会館正堂において記念講演を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在学生からのデザイン公募により制定した創立150周年記念シンボルマークは、令和4年5月2日付で商標登録が完了したことを受け、令和4年7月より職員名刺、法人所管封筒にシンボルマークを取り入れ、デザインを一新した。また、シンボルマーク浸透施策の一環として、学習院蔡々会オリジナル商品への展開にも着手した。その他シンボルマークシールや大学卒業式用手提げ袋を製作した等、各種広報誌や印刷物へのシンボルマーク活用を周知すると共に、教職員に対しては、e-mail署名欄に周年文言付記を依頼するよう学内外へ向けて周年ピーアール活動を推進した。</li> <li>・創立150周年記念事業「第1回記念講演会」は、令和4年10月15日(土)に目白キャンパス創立百周年記念会館において開催した。学習院とゆかりの深い一般社団法人霞会館(華族会館の後身)の鷹司尚武理事長による学習院の黎明期を中心とした講演の他、オープニングに学習院の軌跡を辿るショートムービーを上映した。本ショートムービーは、講演会に合わせて立ち上げた学習院創立150周年記念事業特設サイト(HP)に掲出し、広く一般の方々も視聴できる環境を整えた。</li> </ul>
令和5年度 (2023年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回目となる創立150周年記念事業は、学習院とゆかりのある著名なアーティストを招き、学習院創立百周年記念会館正堂においてコンサートを開催する。学生・生徒等も参加できる企画を検討し、帰属意識の醸成を図る内容とする。</li> <li>・各学校・部門等が掲げた事業計画あるいは当事業計画に掲げていない事業であっても、学習院の未来へつながる企画を「創立150周年記念事業」として各学校・部門等へ提案し、タイアップ企画を検討、推進する。また、令和9年前後に迎える各学校等の周年と連動する企画を検討し、当該学校・部門等の協力を仰ぎつつ、実現を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回記念事業は令和5年10月7日(土)に学習院創立百周年記念会館正堂において、テノール歌手の秋川雅史氏を招き、「音楽会」を開催した。第一部は学習院で大切に歌い継がれている歌を紹介。思い出やエピソードが披露された後、それらの歌を秋川氏が独唱。続く第二部では、初等科から大学までの在校生代表130名が、「千の風になって」「学習院院歌」を秋川氏と合唱。児童から大学生までが一堂に会する初の試みながら、「学習院よ永遠なれ」の想いを乗せた歌声は美しいハーモニーを奏で、心温まる音楽会となった。</li> <li>・各学校・部門とのタイアップ企画については、東洋文化研究所設置70周年とのタイアップ講演会をオンライン開催した。主催は東洋文化研究所、後援は法学部、国際センター、創立150周年記念事業統括部の3部門で実施。大学の協定校である韓国・高麗大学校より法学部客員研究員として着任した金映根教授が「日本と韓国における和解・共生学:起源と持続可能性」というテーマで講演。討論者には法学部政治学科・阪口教授を迎え、東洋文化研究所・田中助教(韓国担当)が進行役となり、周年の節目に日韓の知見を深める講演会を実現した。</li> <li>その他にも数部門にタイアップを打診したものの、学務の事情や費用面が課題となり、協力を仰ぐのは難しい状況にある。</li> </ul>
令和6年度 (2024年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回目となる創立150周年記念事業は、講演会を開催する。令和6年度は大学開学75周年であることから、大学生を中心に据えた企画とし、各界で活躍する卒業生等を招き、学生との対話を取り入れた企画を検討する。</li> <li>・創立150周年記念事業プロジェクトとして「GAKUSHUIN 150 Wills」を推進する。連綿と継承されてきた意識と意思をつなぐ周年事業施策として、ステークホルダーからメッセージを収集し、寄せられたメッセージをWEBで発表すると共に、特設パネルやデジタル展示等で広報展開し、周年の機運醸成を図る。</li> <li>・令和9年の創立150周年記念式典では、プログラムに「伝統芸能鑑賞」を盛り込むことを計画している。具体的には能楽鑑賞を企画しており、出演交渉や演目、構成等の準備に着手する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回記念事業は令和6年10月12日(土)に学習院創立百周年記念会館正堂において、「特別講義 -君たちはどう生きるか-」を開講した。スタジオジブリチーフプロデューサーの鈴木敏夫氏と本学卒業生で東宝映画プロデューサーの市川南氏を講師に招き、大学・女子大学生、男女中・高等科生約600名を対象に講義が行われた。</li> <li>進路、就職、人間関係、将来への漠然とした不安等、学生生徒が抱える悩みに対し、講師から示唆に富んだアドバイスがあり、有意義な学びの時間となった。</li> <li>本講義の様子は、鈴木氏がパーソナリティーを務めるラジオ番組で3週にわたり放送された。また、アーカイブ動画の視聴回数は公開後約1週間で1,000回を超え、150周年の対外的認知度向上にもつながった。</li> <li>・「GAKUSHUIN 150 Wills」は令和6年4月14日(日)開催「第36回オール学習院の集い」において実施した。創立150周年記念事業特設サイト(HP)やデジタルサイネージで撮影の事前告知を行った結果、大学生を中心に50名以上の協力が得られた。</li> <li>・創立150周年記念式典第2部「能楽鑑賞」の実現に向けて、第二十六世観世宗家 観世清和氏にプロデュースを依頼し、演目や出演者の選定、舞台設備の確認等に着手した。</li> </ul>

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

<p>( 令和7年度 2025年度 )</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第4回目となる創立150周年記念事業は、講演会を開催する。第2回(令和5年度)・第3回(令和6年度)は、聴講者を在校生他学内関係者に限定していたことから、今回は対象を卒業生、学外者にも広げ、周年ピーアールの機会とする。</li><li>・創立150周年記念事業プロジェクトとして「GAKUSHUIN 150 Wills」を推進する。昨年に続きステークホルダーからメッセージを収集し、寄せられたメッセージをWEBで発表すると共に、特設パネルやデジタル展示等で広報展開し、周年の機運醸成を図る。</li><li>・令和9年の創立150周年記念式典第2部「能楽鑑賞」の具体化を推進する。観世清和氏の指示を仰ぎつつ、式典会場となる百周年記念会館正堂に能舞台を設置するための検分を行い、実施運営に際する観世宗家側との役割分担を明確にする。</li></ul>	
-------------------------------------	---	--